

令和4年度行政評価（令和3年度対象）シート

政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

施策601 生涯学習の充実

主担当課：生涯学習課

○施策の目指す姿

生涯学習に関する講座と情報発信が充実し、学びを通じて広く市民によるこびや生きがいがはぐくまれています。

○施策の展開

- 生涯学習講座の開催
- サタデーキッズクラブの開催
- 生涯学習を担う地域人材の育成・活用
- 平和学習の機会提供
- 公民館等の整備・管理
- 地域に根ざした図書館づくり

○令和4年度 事務事業評価実施事業（令和3年度対象）

- 生涯学習推進費
- 平和祈念式開催費
- 平和学習推進費
- 夢広場はるひ費

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

図書館来館者数（人）※清須市調べ	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	189,379	194,403	180,434	98,279	129,461
生涯学習講座の延べ参加者数（人）※清須市調べ	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	1,593	1,750	1,629	905	1,017

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 生涯学習講座については、講座の終了後等にアンケートを実施し、市民ニーズの把握に努めているが、近年は趣味、教養社会問題、家庭など、市民の関心が多様化し、市民ニーズも多岐に渡っている。
- 令和3年3月に「清須市生涯学習推進計画（中間見直し版）」を策定し、生涯学習等に関する取組を総合的・計画的に推進している。
- 令和元年度に蔵書点数が15万冊に到達し、令和3年度末には約15万9千冊となった。除架および除籍の労力が増えている実情を踏まえ、蔵書計画の見直しが必要になっている。
- 市立図書館の施設・設備において経年劣化等がみられるため、空調設備やエレベーター改修工事などを計画的に実施していく必要がある。

II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…ーとしている。

達成度指標	基準値	後期計画目標値	実績値			目標値の達成見込
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
市民満足度調査における満足度	24.6% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	—	22.2% (令和3年度)	○
生涯学習講座の参加者満足度	97.9% (平成30年度)	→ (令和6年度)	97.4% (令和元年度)	91.4% (令和2年度)	88.1% (令和3年度)	○
図書館の来館者数	194,403人 (平成30年度)	200,000人 (令和6年度)	180,434人 (令和元年度)	98,279人 (令和2年度)	129,461人 (令和3年度)	○

後期計画期間の達成状況の分析	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習講座アンケート調査により、全ての講座において講師が丁寧に教え、対応したため、受講生からは大変良かったとの声が多かった。また、自分の意思で参加した受講者が93%を占めるなど、生涯学習に対する意識は高い水準を保っている。今後も講師との打合せを密に行い、アンケート調査を参考に満足のいく講座となるよう努めていく。 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点による臨時休館は、令和2年度においては4月から5月まで休館していたが、令和3年度は8月27日から9月30日の35日間に止まったため、入館者数は対前年比31.7%増、貸出人数も対前年比15.0%増とともに増加した。また、サービスポイントの貸出数が、対前年比6.9%減、返却数が、対前年比12.2%増となっており、図書館に来館し本を借り、自宅近くのサービスポイントで返却するスタイルが定着しつつある。サービスポイントを有効に利用していただいている。
----------------	---

III 令和3年度の主な取組結果

- 【生涯学習推進費】
 - 清須キッズアートラボなど、10教室・11コースによるサタデーキッズクラブを開催した。また、22（家庭4講座、現代的課題2講座、教養6講座、趣味4講座、親子6講座）の生涯学習講座を開催した。
 - 【平和祈念式開催費】
 - 平和祈念式は、新型コロナウイルス感染症防止に伴い中止。
 - 新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、8月の平和月間に市内4か所に記帳所を設置。
- 【平和学習推進費】
 - 清須市立小学校児童平和推進派遣研修は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止した。
 - 市内小学校6年生に対して、書道作品を募集し、また市内小中学校に折り鶴作成事業を実施した。8月に原爆に関するパネルとともに市立図書館に展示した。
 - 【夢広場はるひ費】
 - 市立図書館をより身近に感じてもらうために、図書館キャラクターを作成し、利用者にネーミング募集を行った。約300名の応募があり、選考の結果、「キートン」に決まった。（「キートン」は、「キョス」の「キ」と「トシヨカン」の最初の「ト」最後の「ン」から、取った。）。
 - 図書館主催のイベント数：22回 ※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から一部事業について中止し、実施した事業も感染防止対策を徹底し、規模を縮小する場合もあった。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	令和2年度	令和3年度	R3目標値	R3実績値と達成状況	R3目標値	R3実績値と達成状況	R3目標値	R3実績値と達成状況
生涯学習推進費	1,057 [84.9]	1,128 [83.5]	生涯学習講座の講座数（講座）			サタデーキッズクラブの講座数（講座）		
			25	23 ▲	14	12 ▲		
事業の有効性の評価	市民のニーズを踏まえて、多種多様で質の高い生涯学習講座及びサタデーキッズクラブを開催することにより、市民に充実した生涯学習環境を提供することができる。また、講座を通じて、地域づくりに貢献する人材の育成とともに、子どもの郷土文化に対する理解等を深めることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	生涯学習講座及びサタデーキッズクラブの開催にあたっては、近隣市町及び民間の状況を鑑み、講座の内容を検討しながら事業費の縮減を図るとともに、講座内容を市民のニーズに合わせるなど質の向上に努めた。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、予定していた一部の講座は中止となり目標値を下回ったが、換気や手指消毒等の新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を行い生涯学習環境の提供に努めた。							
平和祈念式開催費	103 [99.2]	106 [99.4]	平和祈念式の参加者数（人）					
			300	—	—			
事業の有効性の評価	平和祈念式を開催することにより、平和の尊さを再認識し、市民の平和意識の高揚を図ることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和2年度以降平和祈念式を実施していないことから、例年8月に掲載している広報で過去の平和祈念式の記録写真を掲載することによって、平和の尊さを伝え、周知・啓発した。新型コロナウイルス感染症対策として、記帳所に消毒液を設置した。							
平和学習推進費	0 [0.0]	135 [99.4]	広島平和記念式典への参加児童数（人）					
			24	—	—			
事業の有効性の評価	市立小学校6年生児童の代表者を広島平和記念式典へ派遣することにより、命の大切さ、平和の尊さを学ぶことができる。また、平和を願う書道作品や折り鶴の作成により、市内すべての児童、生徒が平和の尊さについて学ぶことができるとともに、作品及びパネルを市立図書館に展示することで市民に平和を啓発することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、広島平和記念式典への派遣事業が中止となった。書道作品や折り鶴の作成事業を実施し、ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間のパネルとともに市立図書館に展示し、平和の啓発に努めた。							
夢広場はるひ費	145,812 [100.0]	184,253 [99.6]	図書館の蔵書数（冊）			図書館で開催する各種イベントの参加者数（人）		
			152,000	158,891 ○	2,600	1,337 ▲		
事業の有効性の評価	指定管理者の持つノウハウを活用して市立図書館を運営することにより、積極的な情報発信を通じて市民の図書館利用が促進されるとともに、様々な工夫をした企画の実施や蔵書の充実などにより、市民に充実した生涯学習環境を提供することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	夢広場はるひについては、指定管理者制度を導入していることにより、民間の柔軟なノウハウを生かした事業を経費の縮減を図りつつ充実したサービスの提供ができた。また、名古屋芸術大学、キリンビール(株)などと連携し、ワークショップ、セミナー等を行い、図書館への来館・利用促進を図った。							

V 施策の評価と今後の方向性

- 今後も市民ニーズの変化を的確に捉えて、生涯学習講座のコース設定等に努めていく。市民に知識や技術を伝えたい個人や団体に登録いただく「生涯学習人材バンク」の登録者は微増しており、引き続き生涯学習を担う地域人材の発掘や活用に取り組んでいく。また、「生涯学習人材バンク」の活用件数が少ないため、生涯学習講座などの機会を捉えて周知に努める。
- 平和記念式典について、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、開催方法の検討をする。
- 市立図書館の管理・運営については、指定管理者においてこれまでの実績等を踏まえながら、更なる図書館サービスの向上に努めていく。
- 公民館を含む社会教育施設について、公共施設等総合管理計画に基づく公共施設マネジメントの推進とあわせて、民間活力の活用についても検討していく。

令和4年度行政評価（令和3年度対象）シート

政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

施策602 文化・芸術活動の振興

主担当課：生涯学習課

○施策の目指す姿

文化や芸術にふれる機会が充実し、市民が生活の潤いや心の豊かさを実感できています。

○施策の展開

- 1 芸術劇場等の開催
- 2 地域の歴史・文化の啓発
- 3 文化・芸術活動を行う団体への支援
- 4 魅力ある美術館づくり
- 5 絵画トリエンナーレの開催

○令和4年度 事務事業評価実施事業（令和3年度対象）

- 1 文化活動費
- 2 文化協会補助金
- 3 夢広場はるひ費
- 4 絵画トリエンナーレ開催費

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

美術館来館者数（人）※清須市調べ	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	14,264	10,902	10,767	23,378	9,321
トリエンナーレ応募者数（人）※展覧会開催年※清須市調べ	第6回（平成21年度）	第7回（平成24年度）	第8回（平成27年度）	第9回（平成30年度）	第10回（令和3年度）
	390	491	506	637	370

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 市民が良質な文化・芸術を鑑賞できる機会を提供するため、「芸術劇場」を毎年開催している。文化・芸術活動を行う各種団体においては、会員の高齢化が進行していることから、若い世代が文化・芸術にふれる機会づくりを積極的に行うことにより、文化・芸術活動を担う若い人材を育てる必要がある。
- はるひ美術館では、地域に根ざした芸術活動の拠点として、魅力ある美術館づくりを進めるとともに、その魅力を積極的に発信する必要がある。
- はるひ美術館では、全国公募の絵画展「はるひ絵画トリエンナーレ」を10回開催し、国内でも広く知られる絵画展となっているが、今後は過去の受賞者を育成するという観点で、展覧機会を設け、多くの市民に美術館を訪れていただくことによって、市民の教養及び文化の発展に努めていく必要がある。
- はるひ美術館の収蔵庫の収納能力が限界になったため、引き続き有限なスペースを考え、慎重に収集作品の選定にあたりるとともに、収納場所の整備についても検討していく必要がある。また、施設・設備においても経年劣化等がみられるため、空調機器更新工事、エレベーター改修工事などを計画的に実施していく必要がある。

II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…ーとして

達成度指標	基準値	後期計画目標値	実績値			目標値の達成見込
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
市民満足度調査における満足度	23.1% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	ー	ー	21.1% (令和3年度)	○
美術館の来館者数	10,902人 (平成30年度)	17,000人 (令和6年度)	10,767人 (令和元年度)	23,378人 (令和2年度)	9,321人 (令和3年度)	▲

後期計画期間の達成状況の分析

- 市民満足度調査における満足度が平成30年度より令和3年度が2%下がった要因の一つとして、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点による臨時休館や鑑賞を控える人が多かったことが考えられる。
- 来館者数の多い特別展期間に、1か月間の休館となったことは大きく影響したが、延長期間を設け、10月1週間のみで700名弱（特別展入場者計の3分の1）の来館があった。
- また、昨年同様アーティストシリーズ期間の来館者数が多く、下期の来館者増につながった。

III 令和3年度の主な取組結果

- 【文化活動費】清須市文化協会との協力により例年実施する、納涼盆踊り、カラオケ発表会、文化展、芸能発表会については新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止した。
- 芸術劇場「きよす歴史講談」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止した。
- 【文化協会補助金】広報紙「文協だより」を年1回発行、愛知県文化協会連合会諸行事に協賛した。
- 【夢広場はるひ費】はるひ美術館で特別展・企画展等を開催した。企画展「清須市第10回はるひ絵画トリエンナーレ」、特別展「ミスマッチストーリー河北秀也のiichiko design」など

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	令和2年度	令和3年度	R3目標値	R3実績値と達成状況		R3目標値	R3実績値と達成状況	
文化活動費	70 [53.0]	375 [75.0]	芸術劇場の観覧者数（人）			芸能発表会の観覧者数（人）		
			300	ー	ー	600	ー	ー
事業の有効性の評価	芸術劇場や芸能発表会、文化展、納涼盆踊りなど、市民に優れた文化・芸術鑑賞の機会を提供するとともに、各種市民団体の発表の場づくりを行うことにより、市民の文化・芸術活動の振興を図ることができる							
事業実施に当たり工夫した点	新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、予定していた事業が中止となった。							
文化協会補助金	2,751 [100.0]	2,562 [100.0]	文化協会の会員数（人）			文化協会の加盟クラブ数（団体）		
			1,220	1,220	○	88	83	▲
事業の有効性の評価	清須市の芸能文化の発展を積極的に展開する清須市文化協会の活動を支援することにより、市民の自主的な文化・芸術活動を促進することができる。							
事業実施に当たり工夫した点	清須市文化協会の各種活動に係る事業費に対して、補助金交付要綱に基づいて、適正に補助を行った。							
夢広場はるひ費	145,812 [100.0]	184,253 [99.6]	美術館の収蔵点数（点）			展覧会の開催回数（回）		
			234	230	▲	6	6	○
事業の有効性の評価	指定管理者の持つノウハウを活用してはるひ美術館を運営することにより、積極的な情報発信を通じて市民の美術館利用が促進されるとともに、魅力のある企画展の開催やそれに伴うイベントの実施などにより、市民が良質な芸術を鑑賞できる機会を提供することができる。							
事業実施に当たり工夫した点	夢広場はるひについて、一括して指定管理者制度を導入していることにより、民間の柔軟なノウハウを生かした事業を展開することができるため、経費の縮減を図りつつ充実したサービスの提供ができた。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を行いながら、魅力ある展覧会企画や教育普及事業に努めた。							
絵画トリエンナーレ開催費	7,568 [98.1]	3,364 [93.7]	絵画トリエンナーレの応募者数（人）			絵画トリエンナーレの応募点数（点）		
			ー	ー	ー	ー	ー	ー
事業の有効性の評価	絵画トリエンナーレを開催することにより、市民に優れた絵画を鑑賞する機会を提供することができる。							
事業実施に当たり工夫した点	新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、表彰式と講評会は中止した。展覧会に来館される際には検温や手指消毒を行う対策をした。							

V 施策の評価と今後の方向性

- 市民に優れた文化・芸術に触れる機会を提供するとともに、文化団体の育成などを通じて、文化活動の成果の発表機会の充実を推進しているものの、文化団体は高齢化が進んでいることから、今後も各種イベントを通じて、若者・子どもを含めた市民が身近に文化・芸術に触れる機会を積極的に提供していく。
- 全国公募の「はるひ絵画トリエンナーレ」は美術館の開館当初から開催している事業であるが、市としてトリエンナーレの在り方を検討した結果、第10回目の公募展を区切りとする代わりに、今後においては、過去の受賞者を育成するという観点で、展覧機会を設け、多くの市民に美術館を訪れていただくことにより、市民の教養及び文化の発展に努めていく。
- 来館者を増やす企画に考慮しつつ、地域に親しまれる美術館を目指すため、市にゆかりのある作家の展示の開催や教育普及活動としてサタデーキッズクラブ（清須キッズアートラボ）や大人のためのアートレクチャー（清須アートラボ）などを実施する。

令和4年度行政評価（令和3年度対象）シート

政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

施策603 文化財保護の推進

主担当課：生涯学習課

○施策の目指す姿

市内に存在する文化財の保存と活用が適切に行われ、地域の歴史・文化が継承・発信されています。

○施策の展開

- 文化財の適切な保護
- 文化財保護の啓発
- 歴史資料の公開・展示
- 指定文化財の修理等への支援
- あいち朝日遺跡ミュージアムとの連携

○令和4年度 事務事業評価実施事業（令和3年度対象）

- 文化財保護事業費
- 歴史資料展示室費
- 指定文化財補助金

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
歴史資料展示室来場者数（人）※ 清須市調べ	16,300	15,772	12,425	5,835	7,583
文化財講演会の参加者数（人）※ 清須市調べ	67	40	69	30	—

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 毎年開催している文化財講座や文化財講演会においては、一定の参加者があり、地域の文化財や歴史・文化資源に対する関心は高い状況にある。
- 図書館内の歴史資料展示室では、多様な企画展示により、市民が文化財にふれる機会を提供している。
- 高齢化の進行などにより、山車をはじめとする文化財を後世に継承する担い手が不足している。
- 県は、朝日遺跡の価値・魅力の発信や文化活動、地域連携の拠点とするため、平成28年3月に「愛知県清洲貝殻山貝塚資料館拡充整備基本構想」を策定し、令和2年11月にあいち朝日遺跡ミュージアムをオープンした。
- 市指定文化財は29件となっている。

II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…—としている。

達成度指標	基準値	後期計画 目標値	実績値			目標値の 達成見込
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
市民満足度調査における満足度	23.7% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	—	26.7% (令和3年度)	○
歴史資料展示室の来場者数	15,772人 (平成30年度)	20,000人 (令和6年度)	12,425人 (令和元年度)	5,835人 (令和2年度)	7,583人 (令和3年度)	○

後期計画期間の達成状況の分析

- 満足度は3%増加しているが、令和2年のあいち朝日遺跡ミュージアム開館が寄与しているものと思われる。
- 歴史資料展示室について、令和3年度は3つの企画展を開催したが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から8月末から9月にかけて約1ヶ月の閉館期間があった。
- 全体を通してみると昨年度よりは増加したが、例年と比較すると来場者数は減少した。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、1ヶ月閉館となったことや、それらに伴う図書館の入館者数の減少が影響したと考えられる。
- 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらではあるが、目標値を達成することができるよう、市所有の文化財などを活用し、郷土の歴史・文化にちなんだ魅力ある企画展を開催していく。

III 令和3年度の主な取組結果

- 【文化財保護事業費】
- 文化財講演会「—列島最大規模・弥生墳丘墓に眠るモノたち—500年間・朝日部族ストーリー」は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止した。
- 文化財講座を開催した（全3回、参加者延べ81人）。9月開催分は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止した。
- 【歴史資料展示室費】
- 歴史資料展示室で「清須ゆかりの絵画—江戸から昭和—」、「むかし戦争があった—新発見・最新寄贈資料より—」、「江戸時代の清須の道と橋—古地図・伝説・伝承から—」の年間3回の企画展を開催した。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から1ヶ月間休室した。
- 【指定文化財補助金】
- 市指定文化財に対して、問屋町頼朝車など、修理4件、管理13件を対象として補助を実施した。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	令和2年度	令和3年度	R3目標値	R3実績値と達成状況		R3目標値	R3実績値と達成状況	
文化財保護事業費	216 [86.0]	147 [63.2]	文化財講座の開催回数（回）			文化財講演会の参加者数（人）		
			4	3 ▲		150	—	—
事業の有効性の評価	市内全域に存在する様々な文化財を保護するとともに、文化財講座などの啓発事業を実施することにより、市民が郷土の文化財の素晴らしさを再認識し、地域の歴史や文化に対する理解や文化財保護の意識を高めることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	文化財講座や講演会の講師については、県文化財室や県埋蔵文化財センターなどの関係機関と連携するなど、効率的な事業実施に努めた。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、文化財講座が1回中止、文化財講演会も中止となった。							
歴史資料展示室費	1,302 [86.7]	1,496 [99.8]	企画展の開催日数（日）					
			260	215 ▲				
事業の有効性の評価	燻蒸の実施など、適切な保存を行うことにより、歴史資料の劣化を防止することができる。また、歴史資料展示室において企画展を開催し、市民が歴史資料にふれる機会を提供することにより、市民の文化財に対する関心を高め、地域の歴史・文化の継承につなげることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	寄贈され市所有となった文化財資料などを活用して展示を行うなど、効率的な事業実施に努めた。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から1ヶ月閉館となり、企画展の開催日数は目標値を下回った。							
指定文化財補助金	5,405 [89.3]	2,482 [90.9]	指定文化財の修理に対する補助件数（件）			指定文化財の管理に対する補助件数（件）		
			6	4 ▲		18	13 ▲	
事業の有効性の評価	指定文化財の修理、管理、公開、保存施設整備に係る費用に対して補助金を交付することにより、指定文化財を適切な状況で維持することが可能となり、貴重な文化資源の保存・継承が図られ、市の歴史・文化を市内外に発信することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	文化財所有者に随時助言・指導を行いながら、補助金交付要綱に基づいて、適正に補助を行った。修理補助に関しては、事前に修理計画書の提出を受けることにより、計画的な修繕に努めた。なお、修理件数は、所有者の修理計画、指定文化財の保存状況によって申請されるものであり、管理補助金は民間所有指定文化財の所有者から市施設への寄託等による辞退もあるため、目標値を下回った。							

V 施策の評価と今後の方向性

- 文化財に関する講座等は受講者に大変好評だったことから、引き続き県文化財室など他機関と連携して文化財講演会・講座を開催し、郷土の歴史・文化の発信や郷土愛の高揚を図る。
- 今後も資料の適切な保全を図るとともに、市民に郷土の歴史・文化に触れる機会を提供するため、歴史資料展示室で企画展を開催する。
- あいち朝日遺跡ミュージアムについて、地元として県と一体となって盛り上げるため、県文化財室と連携し、朝日遺跡の紹介やミュージアムの周知を目的に、文化財講座や文化財講演会の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点からいずれも中止となった。今後も文化財講座や講演会等を活用し、県と連携して朝日遺跡やあいち朝日遺跡ミュージアムの積極的な周知を図る。

令和4年度行政評価（令和3年度対象）シート

政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

施策604 スポーツ・レクリエーション活動の振興

主担当課：スポーツ課

○施策の目指す姿

スポーツ・レクリエーションの普及と振興を通じて、健康で豊かな市民生活がはぐくまれています。

○施策の展開

- 1 スポーツの普及に向けた取組の推進
- 2 市民体育祭等の開催
- 3 清須ウオークの実施
- 4 スポーツ活動を行う団体への支援
- 5 総合型地域スポーツクラブへの支援
- 6 スポーツ・レクリエーション施設の管理・運営

○令和4年度 事務事業評価実施事業（令和3年度対象）

- 1 清須ウオーク費
- 2 体育協会補助金
- 3 清洲勤労福祉会館費
- 4 新川地域文化広場費

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
アルコ清洲利用者数（人） ※清須市調べ	297,121	294,686	296,867	100,119	134,961
カルチャ新川利用者数（人） ※清須市調べ	100,443	97,114	95,673	51,730	74,005

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 清須ウオーク、市民体育祭、市民ソフトボール大会、体育協会主催の市民大会などの各種スポーツ事業を展開し、スポーツを通じた市民交流を図る機会を提供している。市民の自主的なスポーツ活動の促進及びスポーツを楽しむことができる環境づくりの推進にあたっては、総合型地域スポーツクラブ「きよすスポーツクラブ」が大きな役割をはたしており、財政面や運営面の支援をしている。
- アルコ清洲、カルチャ新川及び春日B&G体育館などの体育施設は、老朽化が進んでいるため、順次適正な改修・大規模な修繕を行っている。

II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…ーとしている。

達成度指標	基準値	後期計画 目標値	実績値			目標値の 達成見込
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
市民満足度調査における満足度	26.3% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	—	23.3% (令和3年度)	○
週1回以上スポーツ・レクリエーション活動を行っている市民の割合	20.0% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	—	21.9% (令和3年度)	◎
総合型地域スポーツクラブの会員数	361人 (平成30年度末)	500人以上 (令和6年度末)	292人 (令和元年度末)	211人 (令和2年度末)	274人 (令和3年度末)	▲

後期計画期間の達成状況の分析

- 市民満足度調査における満足度については3.0ポイント減少しているが、コロナ禍でスポーツイベントの多くが中止となったことが要因と考えられる。
- 週1回以上スポーツ・レクリエーション活動を行っている市民の割合については1.9ポイント増加しており、これはスポーツ推進委員によるスポーツの普及・啓発などの活動によるものと考えられる。
- 総合型地域スポーツクラブの会員数は、平成29年度から年々減少傾向にあったが、新型コロナウイルスの蔓延も落ち着き、若干であるが会員が増え始めている状況である。会員の高齢化が進んでいることから、今後は若年層や子育て世代の新規会員を増やす取り組みを進めていく。

III 令和3年度の主な取組結果

- 【清須ウオーク費】
清須ウオークを11月に開催（参加者：316人）
 - 【清洲勤労福祉会館費】
網戸取替工事、メインアリーナ非構造部材耐震改修工事、自家発電機ラジエター改修工事を実施。
 - 【新川地域文化広場費】
舞台音響設備等更新工事実施。
 - 【その他】
西枇杷島野球場及び西枇杷島子ども野球場の防球ネット設置工事実施。
- ※予定していた、スポーツクラブの教室（前期分）と啓発事業（障がい者スポーツ交流会・スプリングフェスティバル）、地区体育祭、市民ソフトボール大会、清須ウオーク（4月）は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、中止とした。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	令和2年度	令和3年度	R3目標値	R3実績値と達成状況	R3目標値	R3実績値と達成状況	R3目標値	R3実績値と達成状況
清須ウオーク費	947 [49.2]	1,590 [41.4]	清須ウオークの開催回数（回）			清須ウオークへの協力団体数（団体）		
			2	1 ▲	9	5 ▲		
事業の有効性の評価	清須ウオークは、市のイベントとして定着してきており、その認知度を活かし、市の魅力を市内外の方に知ってもらう機会とすることができ、さらに健康増進のためにウォーキングの機会を提供することができる。また、スポーツの普及および振興につなげることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	協力団体の人材を運営スタッフとして登用し、コース内の要所に配置をした。また、山車蔵の見学を含めたコース設定や市内にあるアグリマルシェはるひから参加者全員にお米のプレゼントなど清須市の魅力発信も併せて行った。							
体育協会補助金	5,921 [100.0]	5,494 [100.0]	体育協会の会員数（人）			体育協会の主催大会数（大会）		
			2,300	2,058 ▲	23	20 ▲		
事業の有効性の評価	スポーツの普及・振興活動や健康で豊かな市民生活を展開している清須市体育協会の運営支援を行うことにより、スポーツを通して快適で魅力ある街づくりに寄与することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策も含め各種活動に係る事業費に対し、適正な運営支援を行った。							
清洲勤労福祉会館費	238,346 [96.8]	250,977 [87.0]	アルコ清洲の利用者数（人）			指定管理者が行う自主事業数（事業）		
			330,000	134,961 ▲	70	70 ○		
事業の有効性の評価	本市で最も利用者の多いスポーツ施設であるアルコ清洲の温水プールについては、指定管理者制度を活用して様々な自主事業を実施することにより、市民の健康増進・体力向上に寄与するとともに、市民の交流を促進することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	指定管理者が有するノウハウを十分に活用して施設管理を行うことによりコストの削減を図り、施設再開の6月からは新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策（通常時の入場制限や繁忙期の市民限定利用など）をして、市民に対するサービス向上を図ることができた。							
新川地域文化広場費	148,106 [98.7]	122,919 [98.9]	カルチャ新川の利用者数（人）			指定管理者が行う自主事業数（事業）		
			100,000	74,005 ▲	23	21 ▲		
事業の有効性の評価	温水プールやアスレチックジムなどを有する体育施設であるカルチャ新川については、指定管理者制度を活用して様々な自主事業を実施することにより、市民の健康増進・体力向上に寄与するとともに、市民の交流を促進することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	指定管理者が有するノウハウを十分に活用して施設管理を行うことによりコストの削減を図り、施設再開の6月からは新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策（入場制限など）をして、市民に対するサービス向上を図ることができた。							

V 施策の評価と今後の方向性

- 清須ウオークが市のイベントとして定着する中、コロナ禍により春のウオークは中止とし、11月の開催のみとなった。新型コロナウイルス感染症の影響下にもかかわらず多数の市民が参加した。今後も市民団体との協働などにより変化に富んだイベントを企画・検討していく。
- 総合型地域スポーツクラブ「きよすスポーツクラブ」は、子供から高齢者まで気軽にスポーツのできる環境づくりの役割を担っており、今後もスポーツの裾野を広げるため、若年層の会員確保に努めるとともに、クラブが財政面・運営面において自立できるように支援をしつつ、財源状況に見合った助成を検討していく。
- アルコ清洲・カルチャ新川については、指定管理者制度により民間経営の発想やノウハウを活かした市民サービスの向上を図ることができている。なお、施設は、建物・設備の老朽化が進んでいるため、計画的に改修・修繕を進める必要がある。

令和4年度行政評価（令和3年度対象）シート

政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

施策605 国際交流の振興

主担当課：生涯学習課

○施策の目指す姿

市民参加による国際交流が進展し、子どもから高齢者まで幅広い年齢層において国際理解に対する関心が高まっています。

○施策の展開

- 1 国際交流に関するイベントの開催
- 2 国際理解の啓発
- 3 国際交流活動を行う団体への支援

○令和4年度 事務事業評価実施事業（令和3年度対象）

- 1 国際交流費
- 2 国際交流協会補助金

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
在住外国人数（人）※清須市調べ（各年4月1日）	1,657	1,695	1,852	1,800	1,822
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
国際交流協会補助金	330	364	—	—	—

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 訪日外国人旅行者や外国人労働者が増加する中、国際理解の一層の促進が求められている。
- 本市は、スペイン・ヘレス市と友好姉妹都市提携を結んでいることから、スペイン人の国際交流員によるスペインの生活・文化の紹介やスペイン語講座、市立小学校及び保育園・幼稚園における国際理解授業などを通じて、国際理解の啓発に取り組んでいる。
- また、国際交流活動を積極的に展開する清須市国際交流協会では、市と連携して、各種講座や外国語教室、外国人を対象とした日本語教室（日本語ひろば）などを開催することで、市民参加による国際交流の進展を図っている。
- 清須市における在住外国人数は、近年、一貫して増加しており、平成31年4月の改正出入国管理法の施行などに伴って、今後もその傾向が続くことが予想されるため、生活や言語支援の体制の整備・拡充や、国籍に関わらず市民としての基本的サービスを受けることができる環境づくりなどについても、より推進していく必要がある。

II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…—としている。

達成度指標	基準値	後期計画目標値	実績値			目標値の達成見込
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
市民満足度調査における満足度	15.8% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	—	13.9% (令和3年度)	○
市や市国際交流協会が実施する国際交流に関する講座・イベント等を知っている市民の割合	24.7% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	—	23.9% (令和3年度)	○

後期計画期間の達成状況の分析

- 令和3年度の市国際交流協会のイベント等の活動に関しては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、国際理解講座、語学教室・日本語ひろば以外は中止となった。イベントを中止することにより、活動を知らしてもらった機会が減る要因となる。
- 令和3年度、職員向けに、多文化共生職員研修を開催し、やさしい日本語の活用等について知識を広げることができた。
- 転入される外国人の方に、市民課で日本語ひろばの案内チラシを配付したことにより、広く周知ができた。
- 窓口に来庁される通訳が必要な外国人住民が増加したため、国際交流員が積極的に対応した。

III 令和3年度の主な取組結果

- 【国際交流費】国際交流員によるスペイン語入門、国際理解講座、市立小学校・幼稚園及び保育園における国際理解授業などを実施した。
- 【国際交流協会補助金】清須市国際交流協会の活動に対する支援及び補助を実施した。
- 国際交流協会が実施する主な事業：インターナショナルパーティー、食文化講座、国際理解講座、外国料理教室、外国の遊びと日本文化体験、外国語教室（英会話・スペイン語）、日本語教室、ユニセフコインの募金活動など。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から国際理解講座、外国語教室、日本語教室など一部事業の実施となった。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	令和2年度	令和3年度	R3目標値	R3実績値と達成状況		R3目標値	R3実績値と達成状況	
国際交流費	69 [69.9]	113 [87.8]	学校等における国際理解授業の実施回数（回）	95	87 ▲	友好姉妹都市提携に基づくスペイン関連事業の参加者数（人）	60	61 ○
事業の有効性の評価	友好姉妹都市提携を結ぶスペイン・ヘレス市に関連した講座や、小学生、保育園及び幼稚園児を対象とした国際理解授業の実施などにより、幅広い年齢層の市民の国際理解に対する関心を高めることができる。							
事業実施に当たり工夫した点	市内の小中学校及び幼稚園を訪問して国際理解授業を実施することにより、子どもの国際理解に対する関心を深めることができた。新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため授業内容を接触や飛沫のないように実施した。							
国際交流協会補助金	400 [100.0]	400 [100.0]	国際交流協会の個人会員数（人）	220	245 ○	国際交流協会が主催する講座等の事業数（事業）	7	4 ▲
事業の有効性の評価	様々な国際交流事業を実施する清須市国際交流協会の活動を支援することにより、市民参加による国際交流の進展を図ることができる。							
事業実施に当たり工夫した点	清須市国際交流協会の各種活動に係る事業費に対して、補助金交付要綱に基づいて、適正に補助を行った。							

V 施策の評価と今後の方向性

- 友好姉妹都市提携を結ぶスペイン・ヘレス市に関連して、スペインの生活や文化を紹介するなど、引き続き幅広い年齢層が国際理解に対する関心を高めることができるような魅力ある事業の実施に努める。また、市立小学校、保育園・幼稚園で行う国際理解授業などでは、幼い頃から国際感覚を養う環境を整える。
- 市が実施する講座などの国際交流事業については、引き続き広報紙やホームページを通じて周知を図るとともに、認知度の向上に向けて、より効果的な周知方法を検討する。
- 市民間での国際交流活動において中心的な役割を担う清須市国際交流協会については、その活動が活性化されるよう、引き続き連携を図りながら支援を行う。
- 社会経済情勢の変化などに伴って、今後も在住外国人が増加し続けることを見据えて、外国人住民に対する日常生活のサポート体制の充実や情報提供手段の拡充など、多文化共生社会の実現に向けた取組を実施していく。

令和4年度行政評価（令和3年度対象）シート

政策6 豊かなところからだをばぐくむまちをつくる

施策606 男女共同参画社会の推進

主担当課：生涯学習課

○施策の目指す姿

男女共同参画社会の重要性について市民一人ひとりの理解が深まり、社会のあらゆる分野において男女が互いに理解し、個人としての個性と能力を発揮できる環境が整っています。

○施策の展開

- 1 男女共同参画社会の啓発
- 2 男女共同参画推進懇話会の開催
- 3 相談支援体制の充実
- 4 委員会・附属機関等への女性の登用促進
- 5 特定事業主行動計画の推進
- 6 女性の社会参加等を推進する団体への支援

○令和4年度 事務事業評価実施事業（令和3年度対象）

- 1 男女共同参画社会推進費
- 2 女性の会補助金

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

男女共同参画講演会の参加者数（人）※清須市調べ	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	370	147	184	—	—
市の委員会・附属機関等における女性委員の割合（％）※清須市調べ（各年4月1日）	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年
	31.3	33.9	34.6	32.2	33.0

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 社会環境が大きく変化する中、多様性に富んだ活力ある社会を形成していくためには、男女共同参画社会の実現が重要となっている。女性が活躍できる社会、男性が家事に入り込める社会、人権を尊重し合える社会などを実現するために更なる啓発に取り組む必要がある。
- 男女共同参画推進懇話会において、職員や委員会の女性登用率やワークライフバランスを数値化し、現状を把握している。また、各課の取組状況においても現状把握をしている。
- 男女共同参画社会の実現に向けて、広く市民に啓発をするため、強化月間に併せて講演会を実施している。また、講演会場のロビーでは、男女共同参画についての理解を推進するための啓発パネルを掲示している。
- 令和4年3月に第2次男女共同参画プランを策定し、あらゆる分野における男女共同参画を総合的かつ計画的に推進している。

II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…とされている。

達成度指標	基準値	後期計画目標値	実績値			目標値の達成見込
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
市民満足度調査における満足度	13.8% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	—	14.5% (令和3年度)	○
社会全体で男女が平等であると思う市民の割合	22.5% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	—	—	22.9% (令和3年度)	○
市の委員会・附属機関等における女性委員の割合	33.9% (平成31年4月1日)	↑ (令和7年4月1日)	34.6% (令和2年4月1日)	32.2% (令和3年4月1日)	33.0% (令和4年4月1日)	○

後期計画期間の達成状況の分析

- 男女共同参画社会の実現に向けては、学識経験者・関係団体・市民代表者等と男女共同参画推進懇話会を年2回実施し、その内容を踏まえて市民への啓発を行っている。また、男女共同計画の考え方を市民に周知する男女共同参画講演会の開催など、男女共同参画に係る市民の意識を高めるための取組を引き続き進めていく。
- 市の委員会・附属機関等における女性委員の割合は、男女共同参画の必要性について周知ができたため、目標値の30%以上に保つことができた。

III 令和3年度の主な取組結果

- 【男女共同参画社会推進費】
- 男女共同参画推進懇話会を2回開催し、人事異動に伴う女性管理職の登用率と職員のワークライフバランス、市委員会等の女性登用率や各課の取組状況などを洗い出し、男女共同参画の今後の進め方などを協議した。
- 清洲市民センターにおいて、男女共同参画講演会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止した。
- 【女性の会補助金】
- 清須市女性の会の活動として、女性の文化教養を高めるための事業や、社会の福祉に貢献する事業に対する協力、各種ボランティア活動、健康教室などを実施した。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（％）]		活動指標①			活動指標②				
	令和2年度	令和3年度	R3目標値	R3実績値と達成状況	R3目標値	R3実績値と達成状況	R3目標値	R3実績値と達成状況		
男女共同参画社会推進費	118 [35.8]	116 [85.1]	男女共同参画講演会の参加者数（人）	350	—	—	男女共同参画推進懇話会の開催回数（回）	2	2	○
事業の有効性の評価	男女共同参画社会の実現に向けて、男女共同参画講演会の実施などによる啓発を図ることにより、市民の認識を深めることができる。また、男女共同参画推進懇話会を開催することにより、今後の事業展開について、有識者等からの意見を踏まえた改善を図ることができる。									
事業実施にあたり工夫した点	新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、予定していた講演会が中止となった。年2回行われる男女共同参画推進懇話会（8月・2月）については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から2月開催分は書面会議となった。									
女性の会補助金	1,645 [100.0]	1,415 [100.0]	女性の会の会員数（人）	615	550	▲	女性の会が主催する講座等の事業数（事業）	7	7	○
事業の有効性の評価	文化教養を高めるとともに、社会奉仕の意識向上を積極的に展開する女性の会の活動を支援、協力することにより、女性の幅広い視野と社会参加の意識を高めることができる。また、生涯学習を通じて生きがいのある心豊かな生活を育むことに寄与することができる。									
事業実施にあたり工夫した点	清須市女性の会の各種活動に係る事業費に対して、補助金交付要綱に基づいて、適正に補助を行った。									

V 施策の評価と今後の方向性

- 男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現に向けて、様々な機会を通じて市民の男女共同参画に対する意識の向上を図るため、今後も現在の事業を継続して行っていく。
- 国の施策の方向性の中でも女性活躍についての施策が積極的に進められており、男女共同参画社会の実現に向けた取組の重要性が高まっている中で、様々な活動において女性の登用数を増やすなど、市としても引き続き男女共同参画懇話会における議論の内容を踏まえて、施策の目指す姿の実現に向けた取組を進める。